

中期経営計画2020

新たな成長基盤の構築に向けて

2016年5月、スカパーJSATグループは、2020年度に向けた新たな経営の指針として「中期経営計画2020」を策定いたしました。

2020年に向けた今後の事業環境の見通し

- 少子高齢化により人口減少が進み、国内市場が縮小する一方で、訪日観光客が大幅に増加するなど、市場環境が大きく変化
- スマートフォンを核とした巨大ネット企業による侵食とIoT(Internet of Things, モノのインターネット)、AI(人工知能)などの進化によって、通信・放送および宇宙分野を含む様々な領域で新たなプレーヤー、新たなサービスが誕生。既存事業領域における競争が激化
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向け、通信環境の拡充とともに、110度BSとCSの左旋のインフラ整備が進み、4K・8Kの利活用が進展
- 宇宙基本計画、宇宙活動法を基軸に宇宙産業が拡大

基本方針

積極的な設備投資や事業投資による、事業領域の拡大を含め、新たな成長基盤を構築することを目指します。

2020年度 数値目標

グループ連結営業収益	2,000億円以上	グループ連結営業利益	300億円以上
EBITDA	600億円以上	有料多チャンネル加入件数	400万件 [※] 以上

(※スカパー！オンデマンドサービスの有料商品契約者数を含む)

有料多チャンネル事業の重点施策

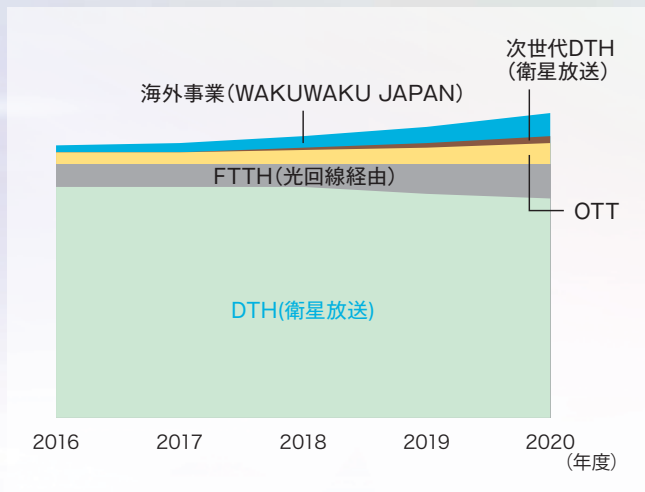
- 放送事業者と連携し、プラットフォームとしてコンテンツによる他社との差別化を推進します。
- DTH(衛星放送)に依存した加入獲得から脱却し、OTTサービス(通信事業者を選ばずインターネット上で提供される動画等のサービス)や、FTTH(光回線経由サービス)での加入獲得へ重点をシフトします。
- DTHは放送の高度化(4K放送)を推進します。
- 海外コンテンツ事業を拡大し、国内外での事業の成長を図ります。

両部門 事業領

- アジアを中心と速し、強固な足
- M&A、事業提て、事業領域の争環境への対

有料多チャンネル事業

営業収益

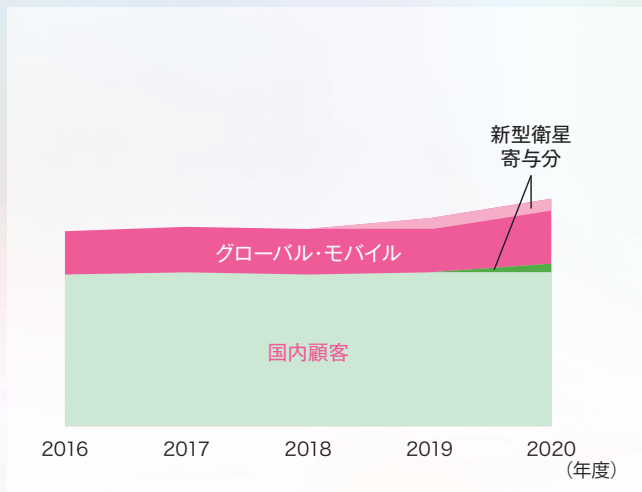


営業利益

販路開拓、次世代DTH投資、OTT投資、スカパー東京メディアセンター設備更新投資、海外事業展開拡大等戦略的な投資を実行。営業利益は当初微減するが2020年度へ向けて漸増。

宇宙・衛星事業

営業収益



営業利益

2017~2018年度は、新規衛星による減価償却費の増加が利益を圧迫。目先ではアジア、ロシアの経済状況も変動要素。新型衛星の利益貢献は2019年度以降を見込む。

宇宙・衛星事業の重点施策

- 拡大するグローバル・モバイルマーケットをターゲットに、HTS (High Throughput Satellite) 等の新型衛星を投入し、競争力を強化して成長の基盤とします。
- 宇宙基本計画に対応した宇宙事業の拡大、非静止衛星を含む新たな衛星利用の開拓を推進します。
- 新予備衛星JCSAT-16の投入により効率的な調達スケジュールを可能にするなど、衛星フリートの効率化を図ります。

の 域拡大へ

した海外展開を加場を構築します。

携を積極的に行つ拡大や新たな競応を図ります。